令和7年度　第3回舞鶴市図書館協議会　記録（抄録）

日時：令和8年3月24日（火）
午前10時30分～12時00分
会場：舞鶴市立東図書館　研修室

＜1. 議事＞

（1） 開会

（2） 図書館協議会　議事

議題①　令和7年度の事業報告について

議題②　令和8年度の予算（案）及び事業計画について

議題③　図書館基本計画に基づく図書館再編の進捗状況について

（3） 閉会

＜2. 会議録＞

（1） 開会 （10時30分）

（2） 図書館協議会　議事

議題①・②・③について事務局から説明

＊質問や意見は以下のとおり

①[議題]令和7年度の事業報告について

②[議題]令和8年度の予算（案）及び事業計画について

（令和8年度の事業計画について）
・新たな中央図書館は、これまでとまったく違うコンセプトを打ち出している。そのコンセプトに基づくサービスは、新しい建物ができてから取り組むのではなく、新しい図書館ができる前からレールを敷いていく必要がある。
・今年度の計画を見ると、2ページの事業内容の最初に「課題解決支援促進のための取り組み」と書いてある。しかし読み進めると、3ページの「図書館ふれあい事業」の項目には、子ども向けのイベントしか書かれていない。具体的な内容がコンセプトと乖離している。実際は、庁内各所と連携し、大人に対するサービスも行っている。事業実施報告を見るとやっていないわけではないので、計画にもしっかりと明記してほしい。この点は昨年も指摘している。
・2ページ下の「連携」に、いきなり子ども関係が前面に出てきて、後から庁内連携が出てくるが、これは本来逆である。計画の書き方を工夫するべき。

（広報の重要性について）
・図書館のSNSをフォローしているが、イベントがあったことを後から知ることも多い。情報がすばやく届くようにしてほしい。
・新たな中央図書館の整備にいよいよ着手し、いろんな打ち出し方をされているが、舞鶴市内で図書館の機運がどれだけ広がっているか。以前は話題になっていたが、今は静かである。じっくり浸透させながら、賛同者やファンを増やしていければと思う。情報を取りに行っていない人間に伝わっていないということは、まだ広がっていく余地がある。来年度の取り組みとして強化してほしい。
・図書館を使う人は固定化しているのではないか。教育熱心で余裕がある人しか来れないのではないか。普段利用しない人に、図書館の良さを広げる取り組みが必要。

（働く世代へのアプローチについて）
・大人が本を手に取るにはその人との距離感が大事。自ら能動的に読まないと進めない習慣を幼少期から身につけておかないと、安易なネットの情報を受け身で受け取ってしまう。
・研修に行った際、講師が紹介した本は多くの人が購入していた。専門家が本を紹介するのは有効ではないか。外部の様々な機関と連携し、PRに努めてほしい。
・働いている人は生活に余裕がなく、図書館に行けないのではないか。
・司書の研修を通して、大人にとって魅力的な図書館をつくってほしい。
・幼稚園に勤めているので保護者を見ているが、お迎えに来てもすぐに帰ってしまい、これでは余裕がないと感じる。そのような方たちがなんらかの形で図書館を利用できるような方法を考えていければと思う。
・課題解決型図書館を目指して何年もたつが、生成AIが台頭している。図書館がAIに飲み込まれないように、レファレンスなど図書館のサービスについてのPRを強化すべき。
・協議会に参加した最初の頃と比べると、図書館でのサービスが多岐にわたっている。
・事業報告を見ると、以前より対象が子どもだけでなく、バランスが取れている。

（学校支援について）
・小学校の先生が、団体貸出で本を何十冊も借りて帰ると、子どもたちは目を輝かせて紙の本を手に取る。タブレットで読む子は、ネットサーフィンに移ってしまうことが多い。本好きな子を育てることが、大人になっても図書館で情報を得る働き手になることにつながると思う。
・ボランティアとして図書館を利用するとき、学校向けの貸出用の本があちこちに置かれていたのを見て本当に大変だと思った。

（中高生サポーターについて）
・ボランティアとサポーターの違いはなにか。
・企業と高校生が一緒になって新しい製品をつくったり、高校生を様々な場面に呼び込む動きが広がっている。図書館サポーターもワクワクしている。
・高校生が企画したイベントで、市内すべての中学校にチラシを配ったが、参加者が0人だったものもある。中学生を呼べるかどうかは、中高生の目線の意見を参考にするのがよい。図書館の運営に中学生の意見を入れることにも価値があるのではないか。
・中高生がいろんな分野において社会参加をしている。一方で、子どもの自殺者も増えている。そういった中で、中高生が社会参加できる場所や、悩みを聞いてくれる場所が、図書館の機能の1つとしてなってほしい。

（自動車図書館について）
・大浦フェスタの移動図書館を見に行った。中学校で勤務しているのだが、移動図書館で本を読んでいた子は学校でも読んでいる。普段読まない子は、移動図書館があっても手に取らないので、どうしたらよいだろうと思っていた。

・移動図書館は、移動先に幼稚園などを考えているのか。
→【事務局】検討中だが、子どもの施設や高齢者施設などを考えている。その他にも幅広く人が集まる場所へ行きたいと考えている。

・高齢者施設では、デイサービスなどで毎日来ない方もいる。そのような方のために、移動図書館でも予約をして預かってもらえるようなサービスがあればよい。

（図書館システムの更新について）
・図書館システムが更新されるそうだが、スマホやマイナンバーカードと連携した便利なものになってほしい。
・新システムでは、どんな職種の人がどんな本を借りているかなどを集計し、分析できれば。今もできるのかもしれないが、それをデータベース化して今後の展開につなげていければと思う。

（職員体制について）
・職員は以前より増えているのか。それとも同じ人数で対応されているのか。
→【事務局】年々増えており、来年度も増員の予定。
・司書は女性ばかりというイメージがずっとある。男性の司書が増えるとよいと思う。

（大人向けイベントについて）
・音読会に興味があるので続けてほしい。
・交流会なども企画していただけたらと思う。

③［議題］図書館基本計画に基づく図書館再編の進捗状況について

（分館について）
・中総へ行くと、放課後の小学生が1階ホールのテーブルで勉強したり遊んだりしているが、学習できるスペースが設けられる予定はあるか。
→【事務局】1階ホールは、机やイスを設置して、居場所づくりをすすめている。
・5階へ上がっていく児童が騒いでいるので、ルール作りも必要。
・8ページに「日星高校生との意見交換」とあるが、カタラボや西高にも意見をもらってはどうか。

（新中央図書館のコンセプトについて）
・新たな中央図書館の計画は、舞鶴市全域どこに住んでいても図書館サービスが受けられるようにするというのが今回の基本的な考えである。
・二つ目が、働き世代、すなわち一番税金を納めている方たち。いちばん大変な課題（子育て、親の介護、仕事、地域の課題、住宅ローンなど）を抱えている人たちに対して、豊かになり安心して生活していけるための情報を図書館が提供するというのが2番目のコンセプトである。
・大都市の図書館は働き盛りの人たちによく使われている。「都会だから」と思うかもしれないが、都市部に住んでいる人の大半は地方出身者である。大人も使える図書館があるから、都会に行く。
・「余裕がないから行けない」は、図書館は暇人が行くところだと思っているからではないか。
・市民が困っていることに情報提供し、地域のビジネスを活性化させる図書館が地方にも必要。

・子育て支援のターゲットは大人である。最大の子育て支援は子どもを育てている大人の収入が増えることだ。
・「デジタルvs本」という構図は違う。図書館は本そのものではなく、本の中身（情報）を扱っている。
・AIは、素人とプロンプトエンジニアでは回答が変わる。これをサポートするのもこれからの図書館の役割。
・これまでは１人で図書館へ行って本を借りるパターンが主流だったが、これからはグループで行って議論をする。そこに、高度な技術を持った図書館員が情報面でサポートするイメージ。
・もちろん、従来型の娯楽のために図書館を使う利用者も、サービスの対象に含まれている。
・行政情報は図書館に来れば必ず見られるようにしてほしい。
・質問のアドバイスやデータの提供をはじめとした、議員へのレファレンスの強化も必要。
・商売に困っている方への融資の案内や広報など、情報の案内もできるのが本当のレファレンスである。

（図書館の運営戦略について）
・図書館はただの「暇な人のための施設」ではない。舞鶴市の経済や社会の課題を見据えた運営戦略が求められている。
・港湾都市、国際都市であり、自衛隊を抱えている都市としての課題は何かを把握する必要がある。
・さらに、高齢化の動向、子どもの学力、不登校の状況、行政と市民の間の意思疎通の乖離状態、参加・協働はどのくらい実践できているかなど。図書館はこれらに対応する必要がある。
・「今はAIがある」という意見もあるが、AIを上回るような司書技能が必要な時代になっている。AIには理解できない、まちの実態を把握しなければならない。
・そのためには「丸・三角・四角」の視点での分析が必要。
・丸は、生活分野。教育、文化、福祉、医療、保険、防犯、都市計画、産業など、生活分野を区切って、どこをバックアップすべきか。各分野において、どこに強みを持つべきかを考え、レファレンスを強化する必要がある。
・三角は人材面。0歳から100歳までの中で、図書館から一番遠い層にどうアプローチするか。中堅から経営者層が全く来ていないとしたら、そこをどうするか考える必要がある。
・四角は政策的に対応すべき面積的・地理的な偏差。新たな中央図書館の計画では、この点について非常に強い意識を持っているが、図書館サービスの地域差が出ないよう、バランスの回復とネットワーク化が必要。
・現状と課題を「丸・三角・四角」の面で抜き出して、その課題に対応した図書館機能とネットワークを加速させてほしい。
・今来ている利用者へのアンケートだけでなく、「なぜ来ないのか」「潜在的なニーズはどこにあるのか」という視点で戦略を立てるべきである。
・世代間交流だけでなく、機関間交流もとりいれて、ソーシャル・キャピタルを増殖させる組織であってほしい。
・人口を単に増やそうとするのではなく、人口内における社会的関係を濃密にさせる（知り合いを増やし、助け合いの関係を増やすこと）政策が必要。
・交流の場をもっと戦略的・意識的に設けるべき。商売をしている方が、それに関するヒントがもらえるような組織が出会えるようなコーナーや、ウィークリーの企画など、事業プランニングをもっと考える必要がある。

（３）閉会（１２時）